



身近な職業に興味

昔から妹や近所の集まりで小さい子と遊んであげることが多く、お世話をするのが好きでした。年下の子の相手をするのが当たり前のような環境でした。進路を考えるタイミングになり、子どもが好きだなと思い、子供と関われる職業に進もうと思いました。父が教員だったので、「教員には絶対ならない!」と思っていましたが、やっぱり私は子どもが好きだなと思い教員になろうと決めました。中学3年の時の担任の先生が目標の先生で、その出会いも大きかったように思います。

友人と切磋琢磨して勉強

高校はバドミントンの部活動も忙しく、課題も多かったです。友人と励まし合って、休みの日は図書館で一緒に勉強をすることも多くありました。富山で教員になろうと考えたときに、地域の教育の特色を学ぶこともできる富山大学の教育学部に進学することに決めました。

専門の教科を見極め出来る時間

富山大学の教育学部は2年生になってから自分の志望する教科を選択することが出来ます。実は高校では理系でしたが、教員として専門とする教科には迷いがありました。幼児教育にも興味がありました。大学で学ぶ中で、英語を専門の教科にしたいと思うようになり、2年次から英語コースに所属しました。1年の前期の成績で希望が通るか通らないかが決まります。専攻が決定してから単位取得のためにTOEICの一定のスコアが必要となるため、一生懸命勉強しました。

教育実習では富山大学教育学部の附属学園で小・中学校の実習があります。私は昨年は小学校1年生のクラスに配属されました。その中で、低学年児の可愛さに癒され、小学校の教員になりたいという気持ちを固めました。

3年次に教員採用試験の「大学3年出願」を利用し、富山県教員採用試験を受験しました。

サークルと学業の両立

大学に入り、新しいことを始めたいと思いストリートダンス部に入りました。ダンスは新しいことをやってみたくて入る人が多く、技術だけではなく表現できるところにも魅力を感じました。100人以上が所属しており、時にはダンスの振り付けを考えると意見を出し合うこともあります。3年生が振付を考える役割を与えられています。私が3年の時は教育実習と教員採用試験と重なり、とてもハードな日々だったことは良い思い出です(笑)

4年次になった現在は授業のコマ数も少なくなり、いよいよ最後の教育実習と教員採用試験の面接というところまで。子どもたち一人一人に寄り添い、成長を支えることのできる教員を目指して頑張ります。



ストリートダンス部の仲間との練習風景

お世話になった高校の先生へ

いつも私たち生徒のことを一番考えて、真摯に向き合ってください、本当に感謝しています。高校生生の時に思い描いた自分の姿であるかはわかりませんが、毎日大学生活を楽しんでいます。

母校の後輩たちへ

上手くいくことばかりではなく、不安になることもあるかもしれませんが。受験勉強は自分の人生の中で頑張ったという自信につながる経験になるので、最後まで全力で頑張ってください。